

渋谷駅周辺まちづくりビジョン
～協奏するまちづくりを目指して～

2016年3月

渋谷区

はじめに

進化する渋谷

渋谷が成熟都市ロンドン・パリ・ニューヨークに並び、世界に誇る渋谷独自のローカルな魅力を強化していくためには、都市の資源や地域特性を再認識したうえで、まちが何を大切にし、何を目指して変化すべきか、対話による探求と共有が必要です。

そのため、渋谷駅周辺まちづくりビジョンでは、渋谷の変化を享受し渋谷駅周辺の個性を最大限に活かすまちづくりに繋がる4つの視点を示し、自由闊達な意見交換の材料として活用することを大きな目的としています。

さらに、渋谷に住む人、働く人、学ぶ人、遊ぶ人、そして渋谷を愛し応援してくださる多様な人々が、世代を超えて交流し未来を語り合い、まちの将来像実現に向けた取組みを発見していく場の創設を提案します。

渋谷が発信し続ける最先端ファッションやITなどと共に、独創的な発展を見せる文化の一つに音楽があります。多様なジャンルのプレイヤーがそれぞれの演奏スタイルを追求しながら互いを認め称賛し、得た刺激が糧となって音楽の持つ魅力が増すように、まちづくりも渋谷に関わる多くの人々が

“協奏”することでまちが進化し続けることを目指し、4つの視点と場の展開による新しい取組みを進めます。

目次

1. まちづくりビジョンの必要性と位置づけ

2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点1：まちの多様な顔を生む“渋谷スケール”

- ①谷地形の上に出来上がってきたまちの履歴を知る
- ②まちの多様なスケールを大事にする

視点2：歩いて楽しい“渋谷ストリート”

- ①渋谷が育んできたストリート文化を大事にする
- ②障害者や高齢者等、誰もが快適に巡り歩けるまちを目指す

視点3：様々な機能が混在し多様な交流を生む“渋谷ライフ”

- ①個性的なエリアの特徴を大事にする
- ②多世代が憧れる多様なライフスタイルが送れる渋谷を創る

視点4：世界への発信力を持つ“渋谷カルチャー”

- ①多様な生活文化の存在を意識する
- ②国外からも魅力が感じられるまちを創る

3. まちづくりの実現へ向けて

**実現手法：住民と渋谷に関わる多様な人々とともに創り上げる
“協奏するまちづくり”の展開**

1. まちづくりビジョンの必要性と位置づけ

<渋谷駅周辺のまちづくりの背景と目的>

【渋谷駅の機能更新と再編及びそれと連携した大規模再開発、駅周辺でのまちづくりの動き】

- ・渋谷駅中心地区と連携した都市基盤整備と大規模再開発をきっかけに、まちが大きく変わろうとしています。
- ・渋谷駅中心地区の外側でも各地でまちづくりの動きがあり、それぞれの地区が相乗効果を生むまちのあり方や、ローカルな強みの「渋谷らしさ」の継承と発展、そして3.11以降の防災や環境への配慮といった、将来へ向けた持続可能なまちづくりを検討する必要があります。
- ・そのためにも、「渋谷駅中心地区まちづくり指針2010」で進めてきたまちづくりを補完する駅周辺のまちづくりの視点が、渋谷の魅力を維持するためにも重要です。

【今後のまちづくりの進め方として、時代の変化に対応できる持続可能なまちづくりを展開する】

- ・渋谷が持つにぎわい・文化発信・生活等の魅力は、渋谷を愛する多様な人々により形成されてきました。
- ・今後、まちが変化し続けていくことに対応しながら「渋谷らしさ」を継承していくためには、行政が主体となって進める部分だけでなく、住民や渋谷に関わる多様な人々が主役となり、将来に渡って持続していくまちづくりの仕組みが必要です。

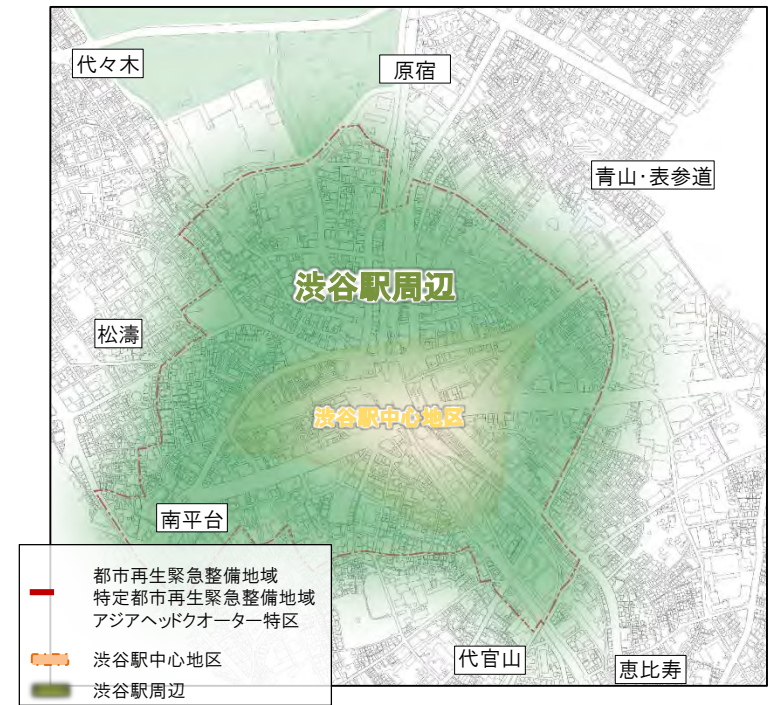
【渋谷駅周辺まちづくりビジョンの目的】

- ① 渋谷駅中心地区と連携し、将来へ向けて持続可能なまちづくりを展開するための
渋谷駅周辺のまちづくりの視点を共有する。
- ② 住民や様々な世代の渋谷に関わる多様な人々が参加し創り上げていく
“協奏するまちづくり”へと展開する。

<渋谷駅周辺まちづくりビジョンの対象エリア>

○「渋谷駅中心地区まちづくり指針2010」で示された、渋谷駅および鉄道改良と一体となった基盤整備と、それに連鎖したまちの再編により、質の高い機能集積・更新および歩行者動線の形成が図られる区域を渋谷駅中心地区とする。

○この渋谷駅中心地区を含めて、原宿・表参道・代官山・恵比寿等の広域渋谷圏へと至る広い範囲を渋谷駅周辺として、まちづくりビジョンの対象エリアとする。



<渋谷駅周辺まちづくりビジョンの位置づけ>

【渋谷駅中心地区まちづくり指針2010】

<渋谷駅中心地区の将来像> 世界に開かれた生活文化の発信拠点“渋谷”のリーディングコア

戦略1:渋谷を発信する

戦略2:谷を冷やす

戦略3:都市回廊を創出する

戦略4:人間中心のまちをつくる

戦略5:安全安心なまちをつくる

戦略6:渋谷らしさを強化する

戦略7:みんなで育てるまちづくり

指針2010の戦略を踏まえて、住民や渋谷に関わる多様な人々とともに渋谷駅周辺のまちづくりを検討していく視点

【渋谷駅周辺まちづくりビジョン】

<まちづくりの考え方> “渋谷”のまちの変化を享受し、渋谷駅周辺の個性を最大限に活かす、「住民や渋谷に関わる多様な人々」が主役となるまちづくりを検討する

【視点1】 まちの多様な顔を生む “渋谷スケール”

- ①谷地形の上に出てきたまちの履歴を知る
- ②まちの多様なスケールを大事にする

【視点2】 歩いて楽しい “渋谷ストリート”

- ①渋谷が育んできたストリート文化を大事にする
- ②障害者や高齢者等、誰もが快適に巡り歩けるまちを目指す

【視点3】 様々な機能が混在し多様な交流を生む “渋谷ライフ”

- ①個性的なエリアの特徴を大事にする
- ②多世代が憧れる多様なライフスタイルが送れる渋谷を創る

【視点4】 世界への発信力を持つ “渋谷カルチャー”

- ①多様な生活文化の存在を意識する
- ②国外からも魅力を感じられるまちを創る

【実現手法】 住民や渋谷に関わる多様な人々とともに創り上げる “協奏するまちづくり” の展開

住民や渋谷に関わる多様な人々が参加し、まちの将来像を語り合う中で、実現に向けた取組みを発見していく“協奏するまちづくり”を展開する

“協奏するまちづくり”のイメージ…まちを構成する在住者、在勤者、企業等が、渋谷を応援する来街者、学生、研究者など多様な人々と交流し、まちの将来像を語り合う中で、実現に向けた取組みを発見していくまちづくり

“協奏するまちづくり”の検討・展開

2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点1： まちの多様な顔を生む“渋谷スケール”

①谷地形の上に来上がってきたまちの履歴を知る

- 渋谷のまちは、西渋谷台地、代々木台地、東渋谷台地の3つの台地の間を渋谷川・宇田川が流れ、谷底と谷上で標高差が約20mもあるすり鉢状の地形の上に成り立ってきました。
- 昭和初期には複数の駅舎が整備され、復興やオリンピックを契機としたインフラ整備を経て、ターミナル駅のポテンシャルを活かした商業集積地・生活文化の発信地として発展してきました。
- 谷地形の上に来上がってきたまちの履歴を認識し、今後のまちの変化へと対応していくことが重要です。

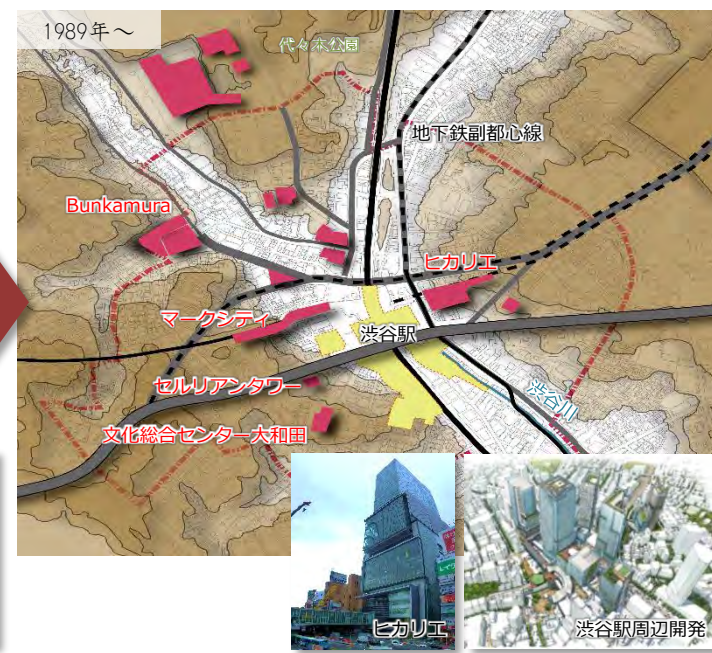
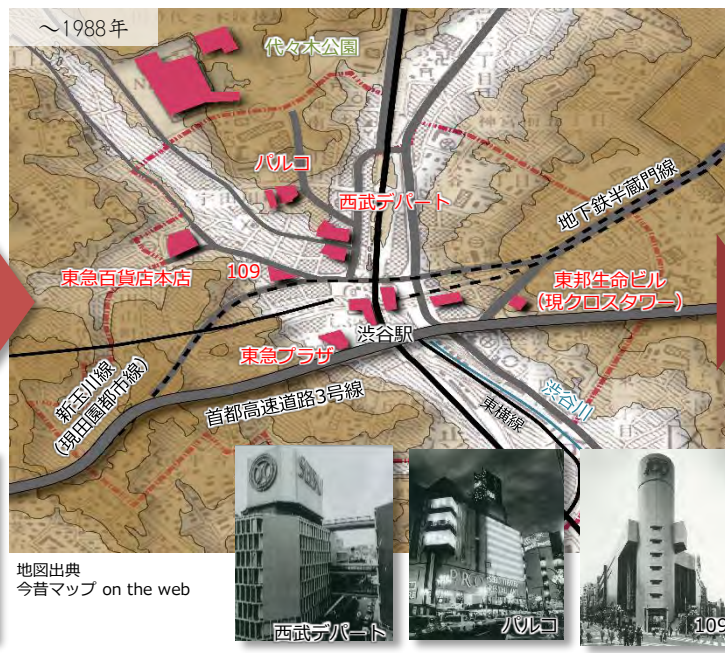
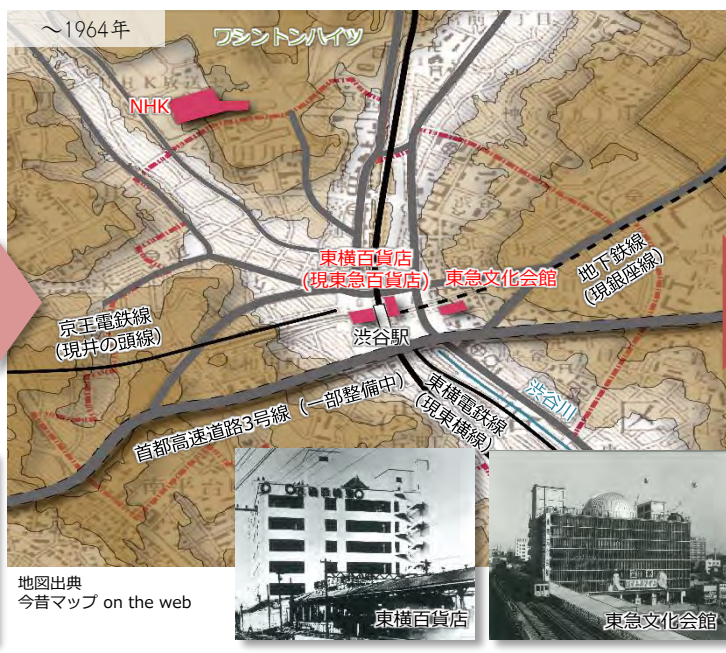
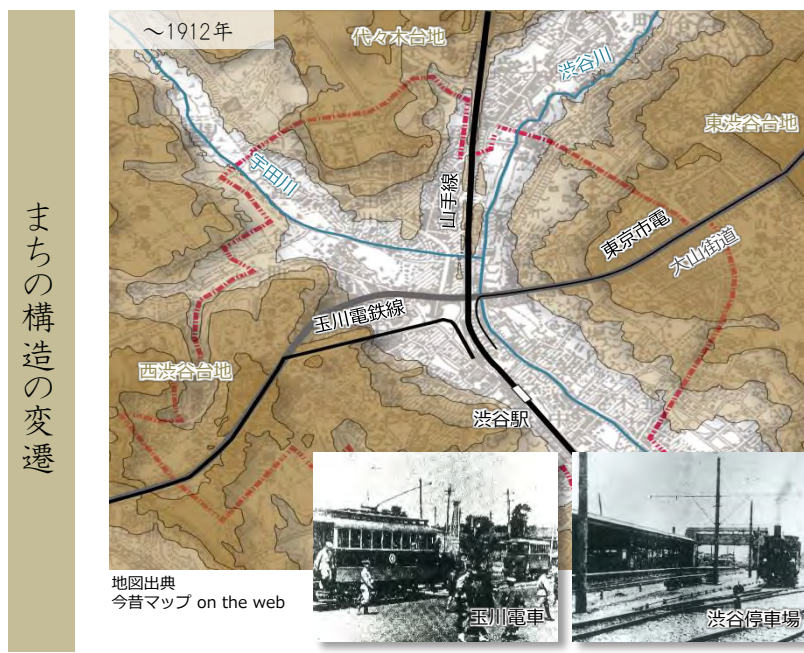
すり鉢状の谷地形の上で、時代ごとに駅やまちの更新が行われ、渋谷の都市構造が形成されてきました。

[渋谷駅周辺での主な出来事とそれに伴って出来上がってきたまちの構造]

渋谷駅周辺では、主に鉄道インフラの整備によって、時代ごとにまちの構造が大きく変わってきました。下図では、渋谷駅周辺で起こった主な出来事を並べ、それに伴って変わってきたまちの構造を図示しています。

年表参考：図説渋谷区史

年	江戸	明治	大正	昭和	平成
	街道沿いの街の形成	鉄道の開通	震災復興	戦災復興・高度経済成長	商業施設・文化施設等開業による発展
渋谷駅周辺における主な出来事	江戸初期 上渋谷村・中渋谷村・下渋谷村の成立 西渋谷台地・代々木台地・東渋谷台地の形成	江戸後期 大山街道沿いに宮益町が発展 1885 日本鉄道開通 渋谷停車場開業 1907 玉川電鉄線開通	1911 東京市電開通 1909 渋谷村 町制を施行 1919 渋谷町役場・公会堂完成 1923 関東大震災発災 1924 渋谷百軒店の創設期 1927 東横電鉄線(現東横線)開通	1932 渋谷・千駄ヶ谷・代々木の三町合併による渋谷区の成立 1933 京王電鉄線(現京王井の頭線)開通 1934 東横百貨店(現東急百貨店東横店)開業 1938 地下鉄線(現銀座線)開通 1945 第二次世界大戦終戦 1948 戦災復興第8地区土地区画整理事業決定 1954 東急会館(現東急百貨店西館)開業 1957 渋谷地下街63店(現しゅちか)開店 1963 ワシントンハイツ(現代々木公園)の返還 1964 東急文化会館の開業 1965 渋谷地下街63店(現しゅちか)開店 1967 東急百貨店本店開業 1968 西武デパート(A館・B館)開業 1970 渋谷駅西口ビル(現東急百貨店南館)開業 1972 戦災復興第8地区土地区画整理事業完了 1973 パルコ開業 1975 東邦生命ビル(現クロスタワー)開業 1977 新玉川線(現田園都市線)開通 1978 地下鉄半蔵門線開通 1979 109開業 1981 松濤美術館開業	1989 Bunkamura(文化村)開業 1995 阪神・淡路大震災発災 2000 マークシティ開業 2001 セルリアンタワー開業 2008 リーマンショック 2010 文化総合センター大和田開業 2011 東日本大震災発災 2012 ヒカリエ開業 2013 東横線・地下鉄副都心線相互直通化 2020 東京オリンピック・パラリンピック開催 2027 渋谷駅中心地区の整備完了予定



まちの構造の変遷

3方の台地に囲まれた地形に合わせて街道が成立し、特に大山街道沿いは盛り場として栄えました。その谷底に、後の渋谷駅(渋谷停車場)ができ、玉川電鉄が開通しました。

東横百貨店などが開業し始め、買い物を目的とした集客という都市生活の新たな形態を生み出しました。

東京オリンピックを契機にインフラ整備が加速するとともに大規模な商業施設が建ち始め、現在の渋谷のまちなみが形成されてきました。

2027年までに渋谷駅を中心とした大規模開発が進行する予定である渋谷は、現在大きな変革期にあります。

2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点1： まちの多様な顔を生む“渋谷スケール”

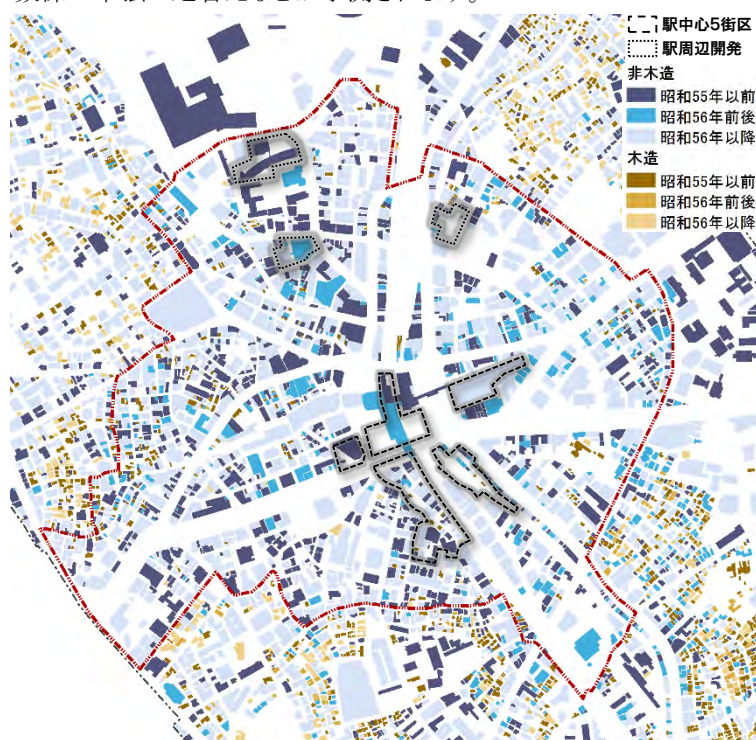
②まちの多様なスケールを大事にする

- 渋谷は、地形や時代の変遷に応じて様々な路地ができ、多様なスケールの建物が混在してきたことで、渋谷らしい特徴のある景観が形成されてきました。
- 渋谷駅中心地区やその周辺では、今後、建物の更新が加速するものと考えられます。
- 今後の市街地の更新に関しては、大街区化や数棟～単独の建て替えも予測されることから、エリアの特徴を活かした空間や機能に配慮することが大切です。

渋谷では地形によって様々な路地ができ、大小の多様なスケールの街区が形成されてきた中で、まちの更新が進んでいます。

[老朽建物の分布]

新耐震基準(昭和56.6.1)以前の建物が多く見られ、大街区化や数棟～単独の建替えなどが予測されます。



出典：H24震災対策基礎調査

[敷地規模の分布]

渋谷駅周辺には様々な規模の敷地が分布し、規模に応じた間口の広さ等も要因となり、多様なスケール感が生み出されています。



※図中の番号は、下図将来イメージのアンクル

出典：H24渋谷区土地利用現況調査

[渋谷駅中心地区及びその周辺の将来イメージ]

多様なスケールが混在してきた渋谷において、渋谷駅中心地区5街区の大規模開発や周辺エリアでもまちの更新が進むとともに、まちの安全性向上や環境改善も期待できます。

■渋谷駅中心地区



提供：渋谷駅前エリアマネジメント協議会

■宇田川町15地区(パルコ)



■渋谷区役所新庁舎



■宮下町アパート跡地



■新渋谷公会堂



まちの多様なスケール感が様々な渋谷の顔となっています。

[渋谷のまちのスケール感]

2027年頃までに渋谷駅中心地区では大規模なスケールのまちなみが形成されていきます。また、その周辺でも開発気運が高まっている状況です。その中で、渋谷の様々な顔を作り出す多様なスケール感を継承していくことが重要です。

まちの顔・シンボルとなるスケール

- 世界からも注目され、ファッション関連等で人気の高い109やパルコなどの建物は、個性的なデザインに加え、間口も広く、坂道が分かれる先端などの視認性が高い場所に立地することで渋谷の顔を強く印象付ける一つの要素となっています。
- 近年では、豊富なビジネス機会を提供し人と投資を集める、国際競争力あるヒカリエ等の大規模な業務施設の整備も進んでいます。

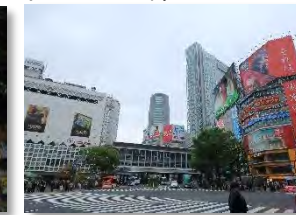
(109)



(パルコ)



(マークシティ)



(ヒカリエ)



連続したまちのにぎわいをつくるスケール

- 渋谷駅から延びる広い放射状の街路に沿って建ち並ぶApple Storeやタワーレコード、adidas、ディズニーストア等の多様な施設が、渋谷のまちの個性を支え、ストリート個性を印象付ける一つの要素となっています。

(Apple Store)



(タワーレコード)



(ディズニーストア)



(adidas)



界隈性あるまちなみを生むスケール

- 路地や裏道に沿って、間口の小さなスタジオ、事務所、コワーキングスペース、店舗、飲食店、ライブハウス等が密集して立ち並んでおり、そのまちなみが界隈性を生み出しています。

(スペイン坂周辺)



(井の頭通り(ルズ)通り)周辺



(ブチ公園通り周辺)



(百軒店周辺)



2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点2：歩いて楽しい“渋谷ストリート”

①渋谷が育んできたストリート文化を大事にする

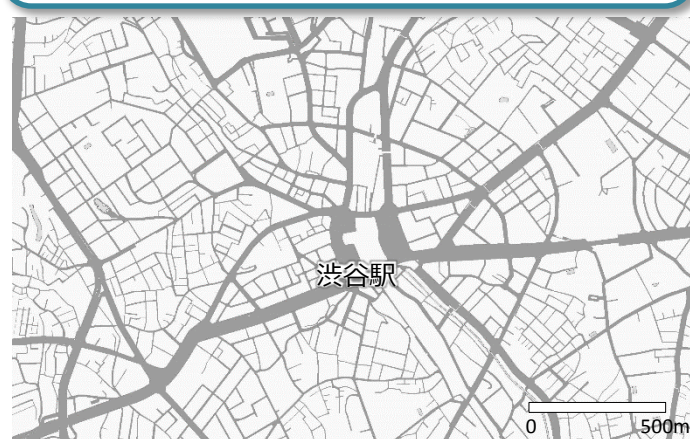
- 渋谷のストリートは、起伏に富んだ谷地形の上に、放射状の街路が広がり、さらに入り組んだ路地によりつながる構造となっています。
- それらのストリートは、地域の人たちなどによって名前がつけられて長年親しまれるとともに、多様な文化を発信する場となり、日常的なまちのにぎわいを生み出してきました。
- 時に日常と非日常をうまく使い分ける個性的なストリートで育まれてきた文化を、どのように継承し、さらに発展させ、発信していくかが、渋谷が魅力を持ち続けるためには重要です。

渋谷駅周辺は、放射状に広がり路地でつながるストリートが形成されています。

[他都市とのストリートの特徴の違い]

渋谷は、起伏に富んだ谷地形の上に放射状に街路が広がっています。その放射状街路の中に、入り組んだ路地がつながっており、複雑な道のネットワークが形成されています。一方で、東京駅周辺は基盤の目状で平坦な構成となっています。

渋谷駅周辺：放射状の街路と路地の入り組み



東京駅周辺：基盤の目状で直線的な街路



出典：基盤地図情報(国土地理院)

渋谷のストリートは日常と非日常をうまく使い分けています。

[ストリートで展開されている祝祭・イベント等の例]

渋谷のストリートは、日常的な散策やウィンドウショッピング等の楽しさに加えて、時には非日常的な体験ができることが魅力です。そうした日常・非日常双方の体験ができるようなポテンシャルを、渋谷のストリートは持っています。

-渋谷ファッションウィーク-



-渋谷音楽祭-



-渋谷・表参道Women's Run-



-さくらまつり-



-金王八幡宮例大祭-



-西の市-



-ハロウィン-



-2014FIFAワールドカップ-



写真提供：でじたる渋谷

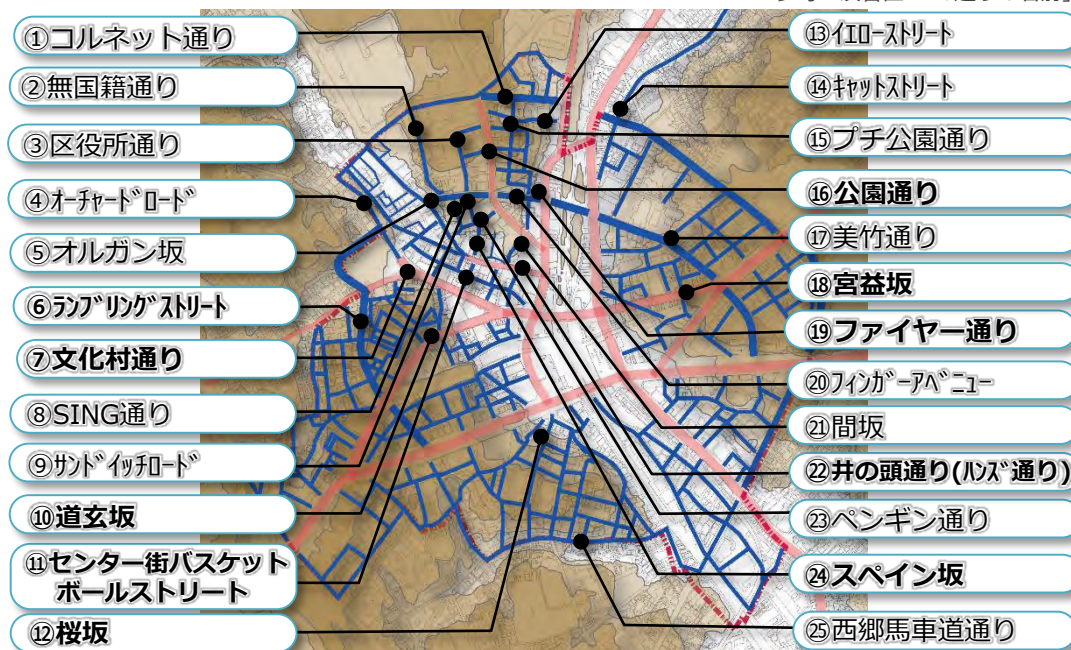
画像提供：Fashionsnap.com

ストリートはそれぞれの個性に応じて名前がつけられ、多様な文化発信の場となってきました。

[様々な名前がつく渋谷のストリート]

ストリートは、それぞれが場所の個性に応じて地域の人たちなどによって様々な名前がつけられ、多様な文化を発信し続けてきました。例えば、以前区役所通りと呼ばれていた通りは、パルコができたことによって公園通り(パルコはイタリア語で公園という意)と呼ばれるようになり、1970年代から若者でにぎわってきました。そのような、渋谷ならではの個性的なストリートは多様な文化発信の場となってきました。

参考：渋谷区HP「通りの名前」



ライブハウスやクラブ等の立地により多様な音楽を発信



渋谷の文化を牽引してきたBunkamuraへと続く坂道



盛り場を由来とし、飲食店が多く多様な人の交流を生む



若者が絶えず集まるにぎわいの中心地



地元が大切にする桜並木が印象的な坂道



パルコ等を中心としてファッションの流行を発信



旧大山街道の歴史を持ち、落ち着いた雰囲気を生む



タワーロード等最先端の音楽を発信



様々な業態の店舗が集まる界隈性ある通り



坂道・路地・雑貨・ファッション等の渋谷を凝縮した通り

2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点2： 歩いて楽しい“渋谷ストリート”

②障害者や高齢者等、誰もが快適に巡り歩けるまちを目指す

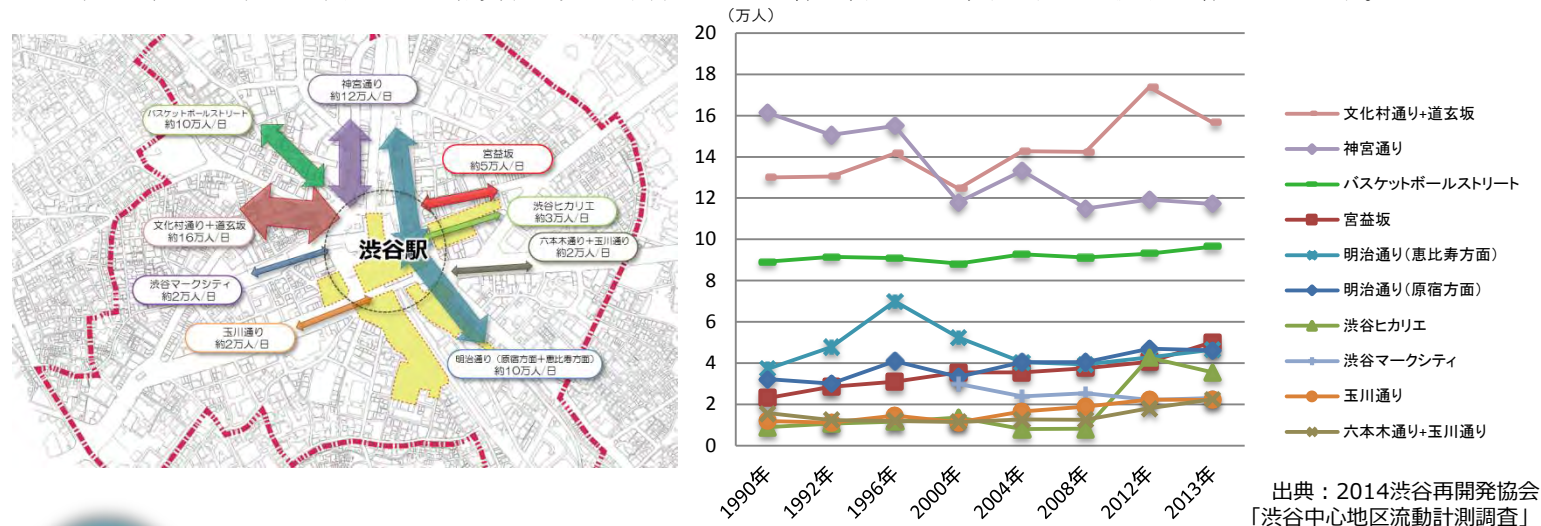
- 複数の路線が乗り入れる渋谷駅は、段階的な整備と谷地形が相まって駅の構造が複雑で分かりにくく、乗り換えが不便等の多くの課題を抱えています。
- 今後渋谷駅改良と中心地区の開発が進むと、鉄道と道路によるまちの分断が解消され、駅を起点とした多様な歩行者動線が改善されます。次のステップは、周辺の魅力あるまちとの接続を強化し、まち全体の回遊性を高めていくことが重要です。
- 歩きたくなる歩行環境づくりへ向け、歩行環境の整備及び維持管理、交通環境の整理などを行い、障害者・高齢者を含めた誰もが快適に巡り歩けるまちを目指します。

多くの歩行者が渋谷のまちを巡っています。

※スクランブル交差点：約3,000人/回

[主な通りの歩行者交通量の推移]

渋谷駅を起点とする放射状道路の歩行者交通量(休日)は、文化村通り、道玄坂、神宮通り(ファイヤー通り)、明治通り(原宿方面+恵比寿方面)が10万人/日以上と多くなっています。また、ヒカリエが開業して以来、東エリアの歩行者交通量が増加傾向にあるとともに、明治通り沿道でファストファッションや雑貨店が次々と出店したことに伴い、表参道・原宿方面への流動が増加しています。



駅からまちへと歩きたくなる・歩きやすい歩行環境づくりが求められます。

[渋谷駅周辺の歩行者環境等に関する意見]

歩きたくなる歩行環境づくりへ向け、歩行環境の整備だけではなく、交通体系や維持管理等の課題が、人々の声として挙がっています。

出典：第1～3回シブヤパブリック展 アンケート結果

歩行環境の整備

-意見例-

歩行者(車いすを含む)にやさしいまちに。単にスロープを付けるだけでなく、動きやすさを重要視してほしい。

お年寄りの方でも歩きやすい道や通路、建物にしてほしい。

交通体系・移動手段

-意見例-

電車・バス乗り場が近くてわかりやすくしてほしい。

ビルはどんどん建つのに、道路が広がらない。自転車用道路を考えてほしい。緑を増やしてほしい。

まちの維持管理

-意見例-

道路の汚さに心を痛めている。日曜朝に道路を清掃するようにしてほしい。

谷底地形を活かし、「どの方向へ行くか?」、わかりやすいまちづくりをしてほしい。

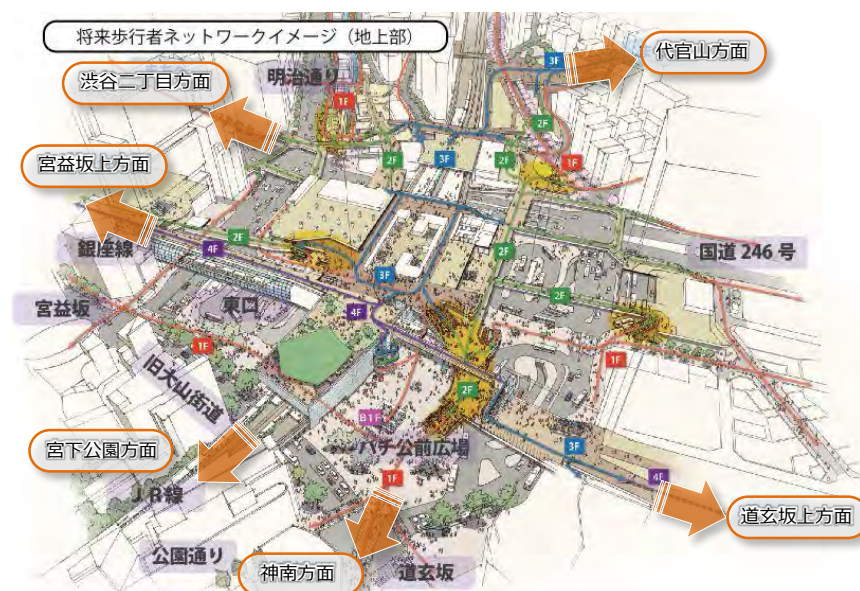
今後は渋谷駅中心地区での開発により、駅からまちへスムーズにつながる歩行者ネットワークが整備され、回遊性の向上が図られます。

[渋谷駅中心地区での将来歩行者ネットワーク]

渋谷駅の改良と周辺開発が進むと、これまで多くの課題を抱えていた駅周辺での歩行者動線が改善されます。

[渋谷駅周辺を結ぶネットワークイメージ]

原宿、青山・表参道・代官山・恵比寿等も含めた周辺のまちへと歩きたくなる回遊性の向上が重要です。



出典：第1回シブヤパブリック展



参考：渋谷駅中心地区まちづくり指針2010

[誰もが快適に巡り歩ける環境の例]

課題解決策の例としては、歩行環境の整備におけるバリアフリー化や舗装整備、環境に配慮した交通や移動手段としてコミュニティバスや自転車シェアリングなどが挙げられます。その他にも、まちの維持管理として清潔感ある街路環境や見やすいサインの工夫なども挙げられます。



出典：大阪市交通局HP



2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点3： 様々な機能が混在し多様な交流を生む“渋谷ライフ”

① 個性的なエリアの特徴を大事にする

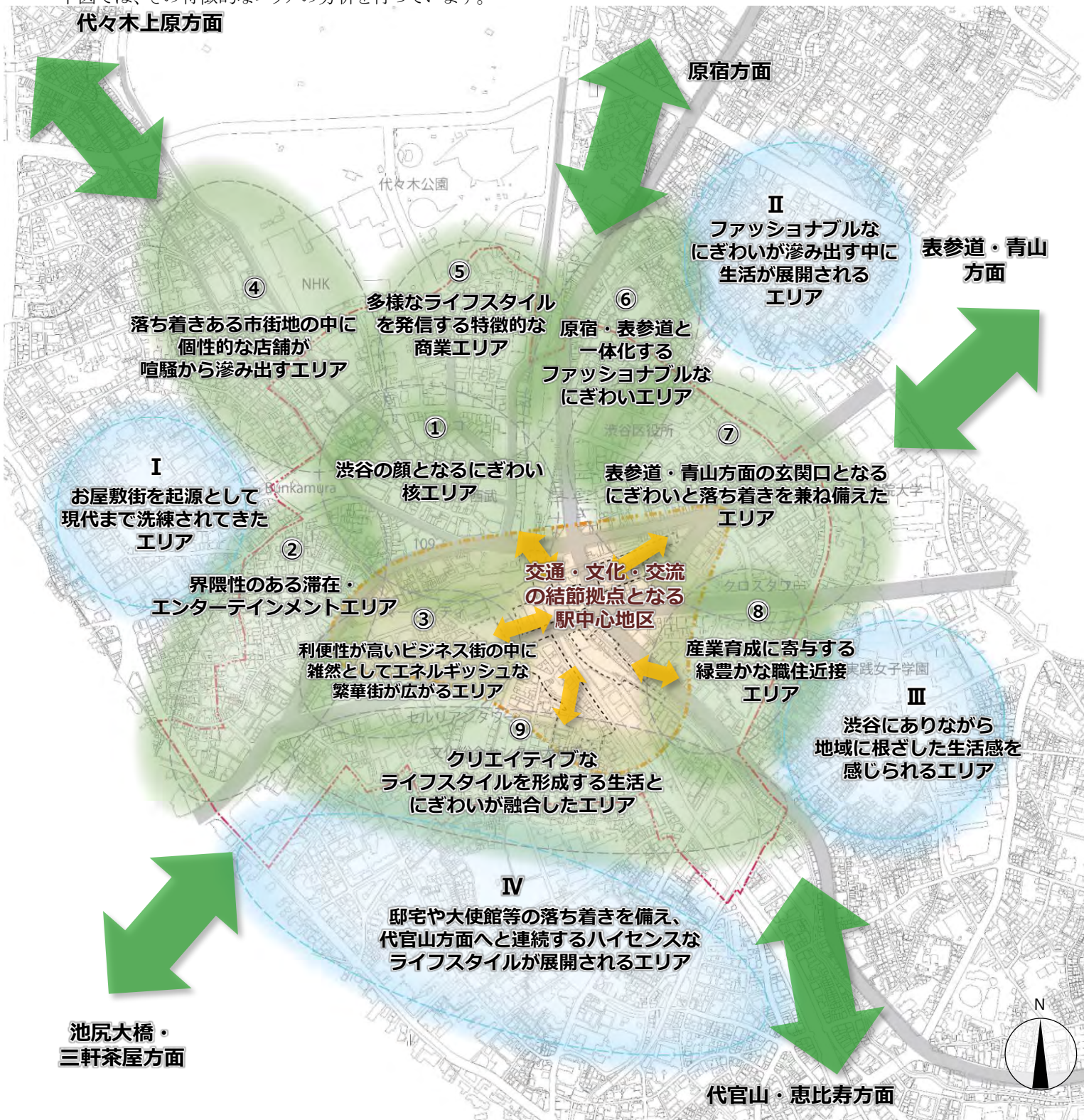
- 生活文化の発信地・商業集積地としての歴史を積み重ねてきた渋谷駅周辺では、多様な機能が混在する様々な個性を持ったエリアが広がっています。
- 今後、渋谷駅中心地区や徒歩圏に良好な住環境を持つ周辺においても拠点形成が進むことが予想されるため、各エリアの個性を活かしつつ、周辺エリアとの連携を図るまちづくりが重要となります。

渋谷駅周辺にはいくつもの個性的なエリアが広がっています。

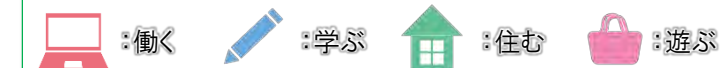
〔渋谷駅周辺の個性的なエリア〕

まちの機能を重ね合わせてみると、交通・文化・交流の結節地点となる駅中心地区があり、その周辺には場所ごとに特徴的なエリアが広がっています。

下図では、その特徴的なエリアの分析を行っています。



各エリアの中心機能イメージ



① 渋谷の顔となるにぎわい核エリア

エリアの特徴 スクランブル交差点を起点として、大小の商業施設が集積・連続する、渋谷の顔となるにぎわいを生み出しています。
[宇田川町・道玄坂二丁目など]

② 境界性のある滞在・エンターテインメントエリア

エリアの特徴 道玄坂の西側に伸びるエリアは、起伏に富んだ裏道に沿ってライブハウスやホテル、隠れ家的な飲食店が立地し、歩かずに新たな発見がある境界性を持っています。
[円山町・神泉町など]

③ 利便性が高いビジネス街の中に雑然としてエネルギーが広がるエリア

エリアの特徴 道玄坂と国道246号に挟まれ、駅と隣接したオフィスが集積する中、繁華街がにぎわいを生み出しています。
[道玄坂一丁目・二丁目など]

④ 落ち着きある市街地の中に個性的な店舗が喧騒からしみ出すエリア

エリアの特徴 井の頭通りから連続するBunkamuraの北側では、南側の喧騒とは異なる落ち着いた雰囲気から「奥渋谷」とも呼ばれ、住商が混在した市街地が広がります。
[宇田川町・神山町など]

⑤ 多様なライフスタイルを発信する特徴的な商業エリア

エリアの特徴 公園通り・ファイヤー通り沿道やその周辺に、ファッション・雑貨等の先鋭的な個店が連続するとともにアーティスト等の活動の場も立地しています。また、井の頭通り、東急ハンズ、オルガン坂付近の表通りから奥まった路地沿いなどは「裏渋谷」とも呼ばれています。
[神南一丁目など]

⑥ 原宿・表参道と一体化するファッションにぎわいエリア

エリアの特徴 明治通りやキャットストリートに沿って、原宿・表参道からしみ出すようにアウトドア系・スポーツ系など個性的なファッションブランドが連続するにぎわいを生んでいます。
[神宮前六丁目など]

⑦ 表参道・青山方面の玄関口となるにぎわいと落ち着きを兼ね備えたエリア

エリアの特徴 明治通りや宮益坂、青山通りを人が往来し、路地裏には中小オフィスや共同住宅が立地しています。青山学院大学周辺は「しぶに」とも呼ばれ、個性的な飲食店等も立地しています。
[渋谷一丁目・二丁目など]

⑧ 産業育成に寄与する緑豊かな職住近接エリア

エリアの特徴 IT系等の中小オフィスが集積するとともに住宅も立地し、古くから金王八幡宮が立地しており、緑豊かで落ち着いた環境を生み出しています。
[渋谷三丁目など]

⑨ クリエイティブなライフスタイルを形成する生活とにぎわいが融合したエリア

エリアの特徴 国道246号の南側は中小オフィス・住宅が集積するエリアであり、代官山方面から連続する住商混在エリアとなっています。
[桜丘町・南平台町など]

I お屋敷街を起源として現代まで洗練されてきたエリア

エリアの特徴 広い道路に面して、敷地規模の広い低層戸建て住宅やお屋敷住宅などが立地するとともに、緑が多く潤いも感じられる、洗練された邸宅街です。
[松濤一丁目・二丁目・神山町など]

II ファッションにぎわいがしみ出す中に生活が開かれるエリア

エリアの特徴 渋谷と原宿・表参道への利便性が高く、住宅街の中にお洒落な店舗が多く立地している、住商が混在している個性的な住宅街です。
[神宮前六丁目など]

III 渋谷にありながら地域に根ざした生活感を感じられるエリア

エリアの特徴 教育機関が隣接しており文化的な要素が垣間見える他、低層アパートや戸建住宅が多く、地域に根ざした生活感を感じられるエリアです。
[東一丁目・二丁目など]

IV 邸宅や大使館等の落ち着きを備え、代官山方面へと連続するハイセンスなライフスタイルが展開されるエリア

エリアの特徴 邸宅が立地するとともに、代官山までつながる住宅中心のまちが広がっており、ハイセンスなライフスタイルがみられます。旧山手通り沿いには、大使館も多く立地しています。
[桜丘町・南平台町など]

2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点3： 様々な機能が混在し多様な交流を生む“渋谷ライフ”

②多世代が憧れる多様なライフスタイルが送れる渋谷を創る

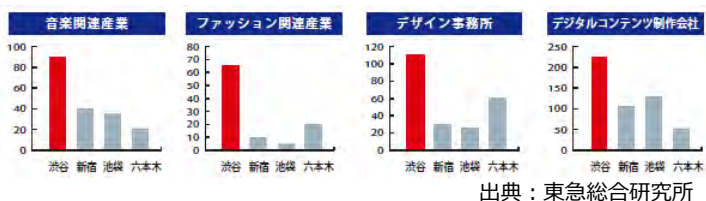
- 渋谷は多様なライフスタイルが送れる憧れのまちのイメージがあります。一方で、都心共通の課題として、子育て環境の充実や人口の高齢化への対応など様々な課題があります。
- これらの課題を解消しつつ、多世代の人々が憧れ、居住することを誇りに感じる多様な生活環境をさらに強化していくことが重要です。

渋谷では「働く・学ぶ・遊ぶ」が充実した多様なライフスタイルをイメージすることができます。その一方で、都心共通の課題も見受けられます。

渋谷で働く

【クリエイティブコンテンツ産業の集積】

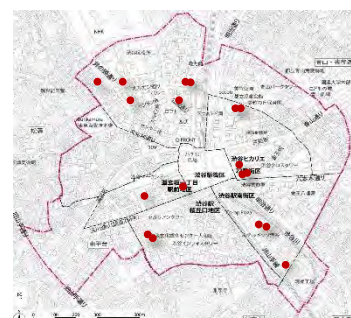
他都市と比較してクリエイティブコンテンツ産業が集積しています。業態も音楽や、ファッション、デジタルコンテンツまで多種多様です。



【ワーキングスペースの立地】

他都市と比較してワーキングスペースが多く立地しており、渋谷では多様なワークスタイルが送れる環境が形成されています。

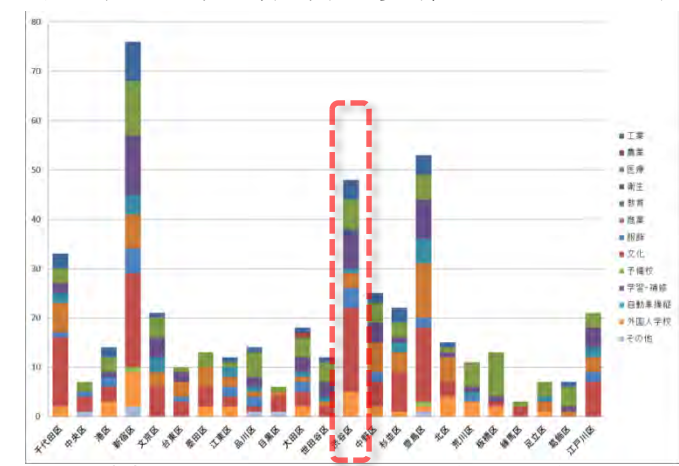
	調査①	調査②	調査③
23区	74	111	-
渋谷区	26【9】	26【11】	29【17】
港区	10	20	-
千代田区	9	15	-



渋谷で学ぶ

【23区内における専門学校等】

23区の中でも大学や専門学校が多く集まっているといえます。



【新たな学びの場】

渋谷のまち全体がキャンパスとなるシブヤ大学の活動など、新たな学びの場が形成されています。



渋谷に住む

【ライフステージ別の住みたい街ランキング】

「渋谷に住むこと」に関しては、特にシングル世帯からは人気が高く、子育て層やDINKS*・ファミリー層からも評価されてきています。

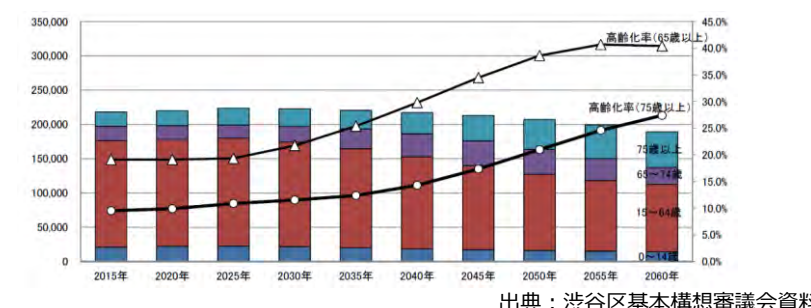
*DINKS (ダブル・インカム・ノーキッズ)
子どもがいなく、夫婦共働き世帯

順位	2018	2019	2020	順位	2018	2019	2020	順位	2018	2019	2020
1位	(2)	恵比寿	212 (126)	1位	(2)	恵比寿	229 (108)	1位	(1)	吉祥寺	177 (153)
2位	(3)	池袋	174 (112)	2位	(1)	吉祥寺	173 (134)	2位	(4)	武蔵小杉	162 (101)
3位	(4)	新宿	173 (107)	3位	(3)	横浜	161 (76)	3位	(9)	自由が丘	162 (82)
4位	(1)	吉祥寺	170 (139)	4位	(4)	武蔵小杉	140 (96)	4位	(3)	恵比寿	159 (106)
5位	(4)	横浜	165 (96)	5位	(4)	目黒	138 (96)	5位	(8)	二子玉川	133 (79)
6位	(8)	渋谷	122 (104)	6位	(11)	自由が丘	127 (86)	6位	(2)	横浜	126 (120)
7位	(16)	自由が丘	122 (54)	7位	(3)	中目黒	116 (102)	7位	(10)	鎌倉	117 (87)
8位	(4)	目黒	113 (107)	8位	(12)	池袋	107 (62)	8位	(5)	目黒	113 (87)
9位	(13)	東京	112 (75)	9位	(6)	品川	105 (83)	9位	(18)	中目黒	92 (47)
10位	(10)	武蔵小杉	109 (89)	10位	(21)	東京	103 (42)	10位	(14)	東京	89 (42)

※()内は前年度のデータ
出典：住みたい街ランキング2016関東版株式会社リクルート住まいカンパニー調査

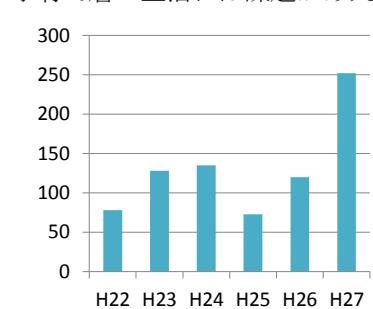
【渋谷区の将来の想定人口推移と想定高齢化率】

現在、渋谷区の居住人口は微増となっていますが、2025～2030年をピークに人口は減少し、高齢化が進行すると想定されます。



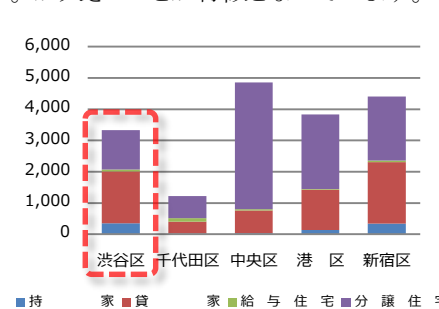
【渋谷区の待機児童数】

待機児童数は増加傾向にあり、子育て層の生活には課題があります。



【渋谷の新設住宅数】

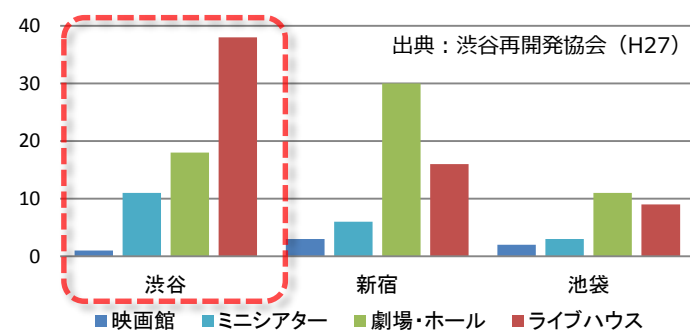
他4区と比較して、賃貸住宅の割合が大きいことが特徴となっています。



渋谷で遊ぶ

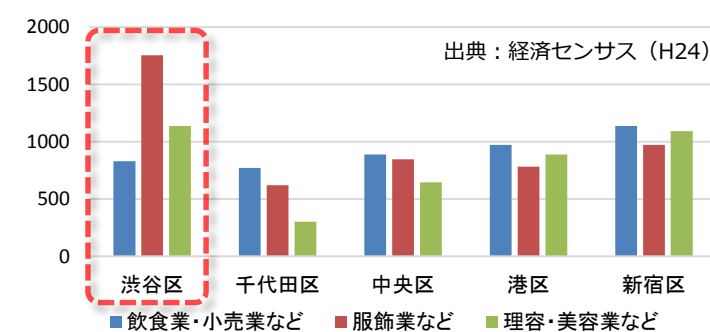
【娯楽施設の立地数】

ミニシアターやライブハウスが多く集まっていることが渋谷の特徴です。



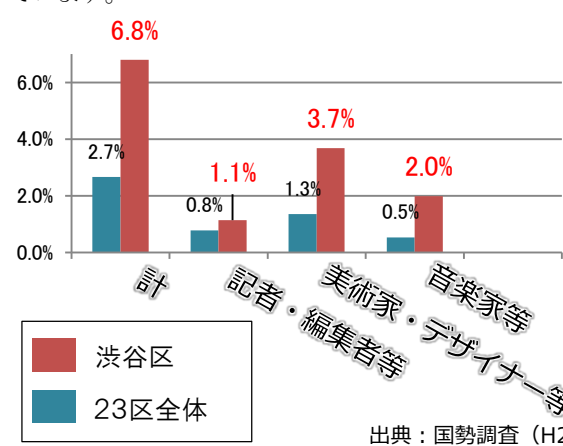
【飲食・ショッピング関連の事業所数】

ファッション系や美容系の事業所数が特に多く、これまで様々なファッション文化を発信してきた渋谷の特徴がみられます。



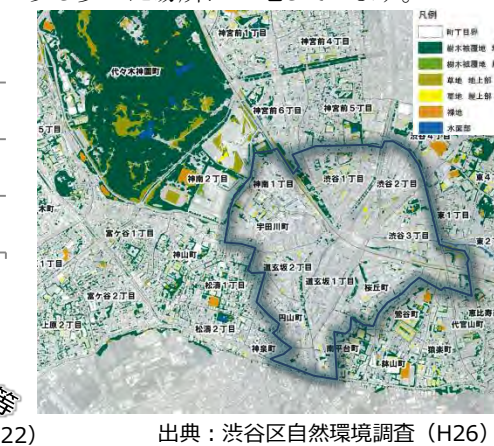
【渋谷在住クリエイターの居住割合】

23区全体と比べて、渋谷区は美術家、デザイナー、音楽家などのクリエイターの居住割合が大きくなっています。



【渋谷駅周辺の緑地】

ヒートアイランド現象の緩和などにつながる、代々木公園等の大きな緑地が、駅から少し歩いた場所に立地しています。



【新耐震基準(昭和56.6.1)以前の老朽建物】

特定緊急輸送道路沿道の建物の耐震化など、防災上の課題もあります。



2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点4： 世界への発信力を持つ“渋谷カルチャー”

① 多様な生活文化の存在を意識する

- 渋谷は伝統芸能からポップカルチャーまで、多様な文化に触れられる環境を作り上げてきたまちであり、その文化は最先端で世界に誇れるものであると多くの方に認識されています。
- 今後も時代の最先端を走る渋谷ならではの生活文化を発信し、多様な人々の交流を生み出していくことが求められます。

渋谷には様々な分野の文化発信施設が立地し、多様な文化に触れられる環境が形成されています。

[主な文化発信施設の立地]

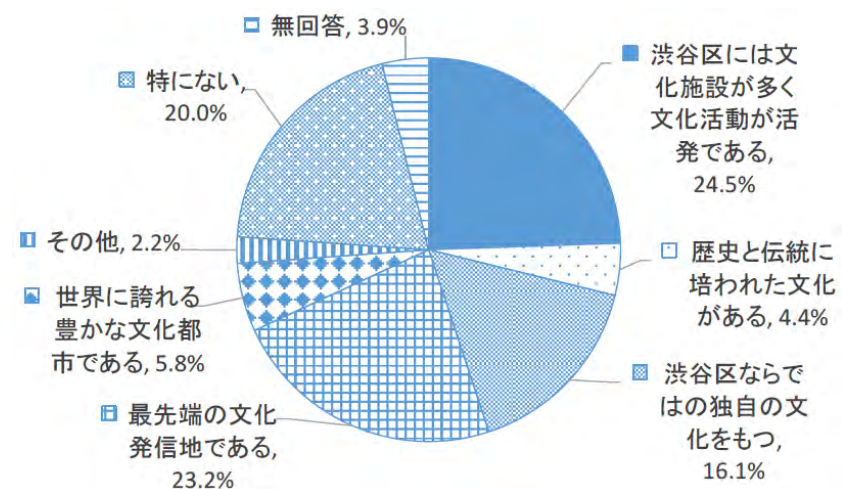
渋谷駅周辺にライブハウスや劇場、映画館などの文化発信施設が多く立地しており、まちなかで渋谷カルチャーに触れられる環境が形成されています。



渋谷は最先端の文化の発信地であることが認識されています。

[渋谷区民の文化に対する意識]

多くの渋谷区民は、渋谷は文化の発信地であり、誇るべき文化を持っているという意識を持っています。



伝統を受け継ぎながらも、最先端の生活文化を発信し、多様な交流が生み出されています。

< 金王八幡宮例大祭 >

毎年九月の第三土日の2日間、五穀豊穡や無病息災を祈願して、各町会の御神輿が渋谷のまちを練り歩きます。



< アースデイ東京 >

環境問題を呼びかけることを目的として、代々木公園を中心に毎年4月の土日に開催されている環境配慮イベントです。



< 渋谷芸術祭 >

文化芸術の発信地である渋谷から、人々が身近に芸術に触れることの出来るように開催されているイベントです。



< 渋谷ファッションウィーク >

渋谷のまち全体がランウェイとなるイベントで、各所で渋谷独自のファッション文化を発信しています。



< 超福祉展 >

福祉やマイノリティへの意識のバリアを取り除くような、デザイン性の高い福祉機器についての展示会が2014年から行われています。



出典：NPO法人ピープルデザイン研究所

2. 渋谷駅周辺のまちづくりの視点

視点4： 世界への発信力を持つ“渋谷カルチャー”

② 国外からも魅力が感じられるまちを創る

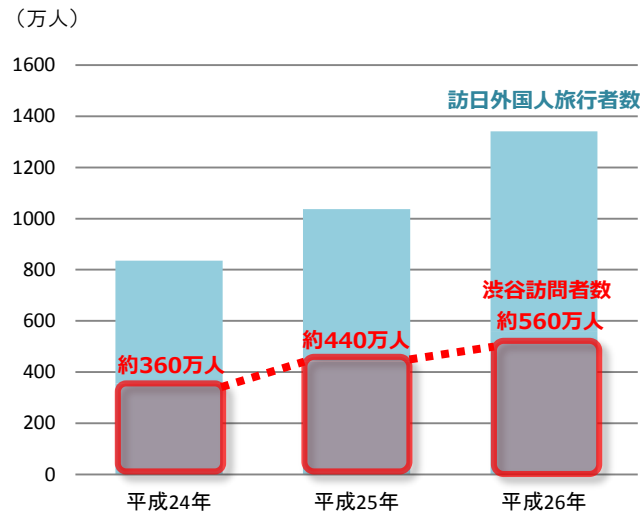
- 渋谷は世界的な認知度が高く、訪日外国人の多くが訪れる人気のスポットとなっています。
- 今後も、外国人観光客が魅力を感じられるまちであり続けることや、外国人も居住しやすく、働きやすい環境を創出することなど、国外からも魅力を感じられるまちづくりを進めることが重要です。

渋谷は、国内だけではなく国外からの認知度も高くなっています。

渋谷が外国人にとって住みよい、働きやすい環境の形成が大事です。

＜訪日外国人旅行者数＞

直近3年間に於いて、外国人旅行者のおよそ40%が渋谷を訪れており、多くの外国人旅行者が渋谷を訪れていることが分かります。



出典：国別外国人旅行者行動特性調査（東京都/H24～H26）
年別 訪日外客数、出国日本人数の推移（日本政府観光局H27）

＜外国人向けガイドブックで紹介されている渋谷の主な観光名所＞

駅周辺のストリートや施設、公園が渋谷の名所として外国人向けのガイドブックに掲載されています。

ランキング	観光場所
1	明治神宮
2	渋谷駅前 スクランブル交差点
3	代々木公園
4	原宿竹下通り
5	表参道
6	渋谷センター街
7	ハチ公像
8	渋谷キャットストリート
9	新宿タカシマヤ
10	渋谷ヒカリエ
11	エビスビール記念館
12	新宿サザンテラス
13	東京ジャーミイ トルコ文化センター
14	Bunkamura
15	浮世絵大田記念美術館

出典：トリップアドバイザー®（H28.3月時点）

＜訪日外国人のTweet＞

都市に関するTweetでは、「Shibuya」が最も多くつぶやかれています。

Tweet数	単語
1213	Shibuya
408	Yokohama
381	Shinjuku
356	Sapporo
226	Nagoya
180	Narita
178	Sendai
166	Roppongi
165	GINZA
145	Asakusa
137	Harajuku
129	Kobe
126	Akihabara
90	Haneda
80	Hakone
79	Niseko
65	Odaiba
61	Ueno
61	Arashiyama

＜渋谷に関するTweet＞

渋谷を訪れる多くの人が、「crossing」や「night」といった単語をつぶやいており、スクランブル交差点や渋谷の夜の街について興味を持っていることが分かります。

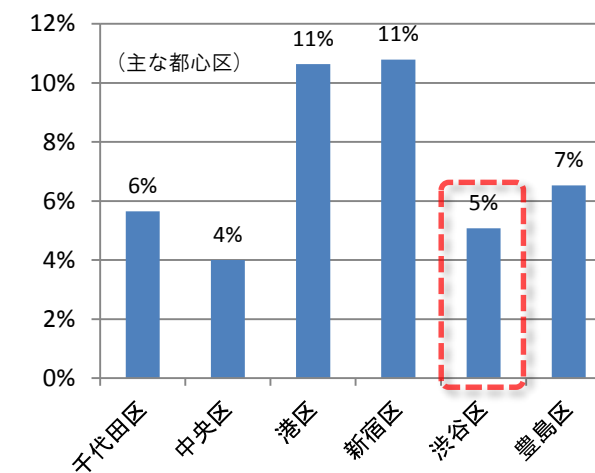
Tweet人数	割合	単語
122	19.7%	crossing
84	13.5%	night
44	7.1%	street
22	3.5%	station
21	3.4%	hachiko
19	3.1%	cafe
18	2.9%	store
17	2.7%	shopping
16	2.6%	dinner
14	2.3%	sushi
12	1.9%	ramen
12	1.9%	morning
6	1.0%	hotel
6	1.0%	breakfast

出典：SNS*等を利用した訪日外国人の意識分析報告書（国交省/H25年度）

*SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）登録された利用者同士が交流できるwebサイト上の会員制サービス

＜渋谷区総人口に対する外国人割合＞

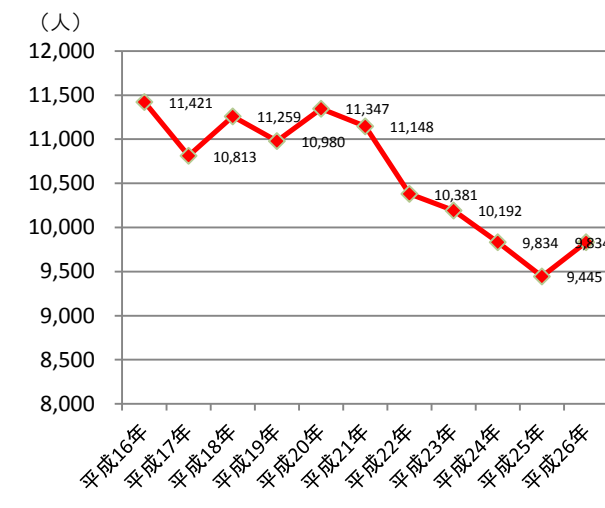
他都心5区と比較してもあまり高くない現状となっています。H22 時点では、渋谷区の総人口約20万人に対して5%（1万人）の外国人が居住しています。



出典：国勢調査（H22）

＜渋谷区の外国人居住者数の推移＞

1万人前後で推移していますが、近年は減少傾向にあります。特にリーマンショック前後から、大きく減少していると考えられます。



出典：統計渋谷

＜訪日して満足した活動＞

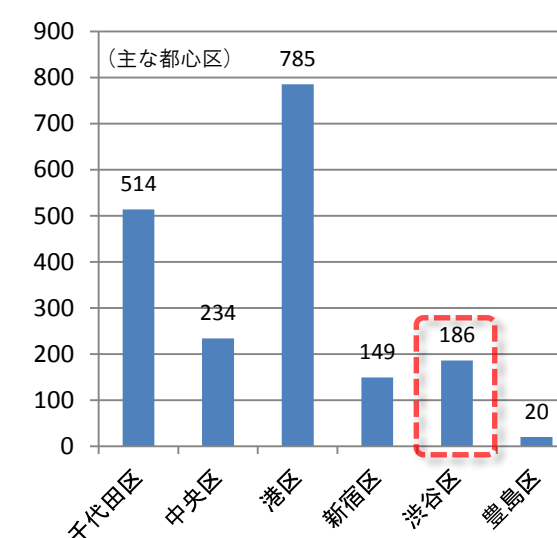
渋谷観光において満足した活動として、街歩きやショッピングなど日常的な行動を楽しんでいます。

行った活動	一番満足した場所 (%)										
	東京駅周辺・丸の内・日本橋 (N=504)	秋葉原 (N=917)	銀座 (N=1,419)	築地 (N=338)	原宿・表参道・青山 (N=675)	渋谷 (N=861)	六本木・赤坂 (N=395)	新宿・大久保 (N=1,204)	恵比寿・代官山 (N=108)	池袋 (N=269)	上野 (N=561)
日本食を楽しむ	22.5	3.2	11.8	86.2	5.0	10.3	19.4	11.3	13.1	11.2	7.5
日本食以外の料理を楽しむ	0.8	0.1	0.4	0.3	0.0	0.2	2.9	0.4	1.0	1.0	0.7
街歩き	19.1	14.0	19.1	4.4	27.8	31.0	20.3	21.0	35.2	19.6	22.4
歴史的・伝統的な景観、寺・神社、日本庭園	15.0	0.6	0.7	0.4	7.4	0.4	1.3	1.4	1.3	0.0	7.0
自然・景勝地観光	5.6	0.4	0.4	0.0	2.8	0.5	2.0	0.7	3.8	0.1	6.4
ショッピング	12.3	58.1	62.7	1.2	46.5	42.4	14.1	44.1	19.2	44.1	23.3
美術館・博物館	0.6	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	4.8	0.1	0.7	0.5	16.2
テーマパーク	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6	0.0	1.4	1.0
アミューズメント	0.0	1.9	0.3	0.0	0.1	0.9	2.0	1.0	0.0	1.0	0.7
ナイトライフ	0.4	0.2	0.3	0.0	0.1	2.9	9.2	2.1	2.5	0.8	0.1
日本の伝統文化	1.1	0.4	0.2	2.1	0.4	0.2	3.2	0.4	0.4	0.3	0.7
日本の現代文化	0.9	17.0	0.8	0.5	5.2	3.1	2.0	1.8	2.5	8.6	1.0
日本の産業・産業遺産	3.7	1.1	0.1	1.2	0.4	0.2	0.7	1.0	0.0	0.4	1.9
スポーツをする	1.2	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.1	0.2
スポーツ観戦	0.5	0.3	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
イベント・祭り	0.4	0.0	0.0	0.3	0.5	0.3	0.7	0.1	1.5	0.0	0.1
ホテル・旅館での滞在を楽しむ	1.8	0.1	0.5	0.1	0.0	0.7	3.9	3.3	3.3	2.6	3.0
スパ・エステ	0.5	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	1.2	0.0	0.1
親族・知人訪問	1.4	0.4	0.1	0.2	0.5	0.6	2.8	1.5	3.9	3.3	2.2
その他	9.4	1.1	1.7	1.2	1.5	5.0	7.1	6.1	9.0	4.1	4.1
無回答	2.8	0.8	0.4	1.5	1.2	1.1	3.4	1.0	1.5	0.9	1.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出典：国別外国人旅行者行動特性調査（東京都/H26）

＜渋谷区の外資系企業の立地数＞

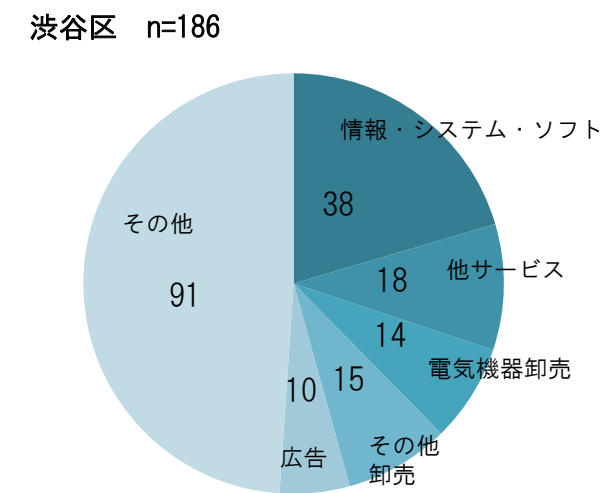
他都心5区と比較して、渋谷は外資系企業は少ない現状となっています。



出典：外資系企業総覧2012年版（東洋経済新報社）

＜渋谷区の業態別外資系企業の立地＞

IT関係を中心とした企業が多く立地していますが、その他の分野の企業も少なくありません。



出典：外資系企業総覧2012年版（東洋経済新報社）

3. まちづくりの実現へ向けて

住民と渋谷に関わる多様な人々とともに創り上げる“協奏するまちづくり”の展開

“協奏するまちづくり”のイメージ…まちを構成する在住者、在勤者、企業等が、渋谷を応援する来街者、学生、研究者など多様な人々と交流し、まちの将来像を語り合う中で、実現に向けた取組みを発見していくまちづくり

- 渋谷区は、平成26年度に開催したシブヤパブリック展で渋谷駅中心地区の将来像を展示しました。また、官民が連携して開催した工事現場見学やワークショップなどを通じ、様々な人々に対し渋谷の将来像を発信してきました。
- さらに、平成27年度に開催したシンポジウム「かも」づくりフューチャーセッション」では参加者が渋谷で実現してみたい様々なアイデアを出し合い、渋谷の未来の可能性をひろげる対話を実施しています。このシンポジウムをスタートアップイベントと位置づけ、渋谷のまちづくりに様々な人々が関わることのできる“場”を創るため、新しいまちづくり手法の検討を開始します。

渋谷のまちづくりに様々な人々が関わることのできる“場”を創るため、新しいまちづくり手法の検討をスタートします。

H26年度～27年度

今後

様々な人々に対する渋谷の将来像の発信

渋谷のまちづくりに様々な人々が関わる場づくり (スタートアップイベント)

① シブヤパブリック展 ~渋谷駅周辺のまちづくりと都市デザイン~

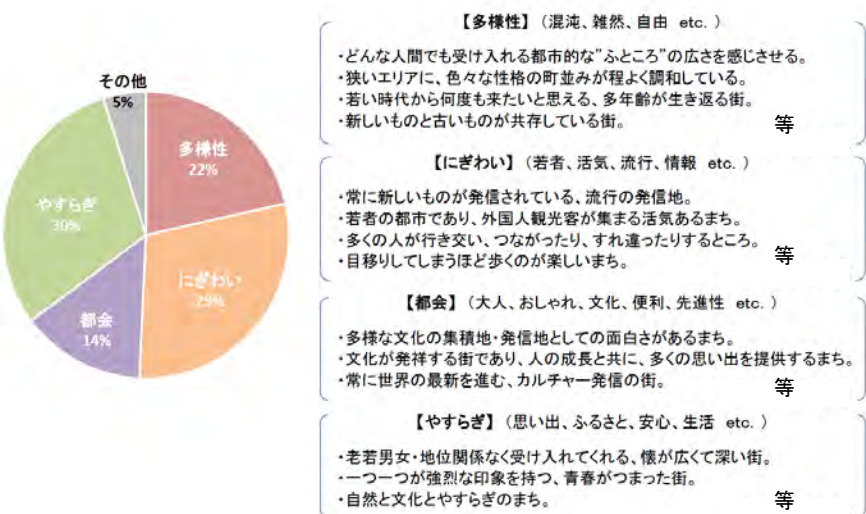
- 渋谷駅周辺の長期にわたる再開発事業、そのダイナミックな将来開発計画と“渋谷らしさを強化する”まちづくりの取組みを紹介しました。
- 平成26年度に計3回開催し、延べ約13,000人の方にご来場いただき、渋谷駅周辺におけるまちづくりへの多くの期待や要望の声が寄せられました。

(シブヤパブリック展の様子)



(来場者アンケートの結果)

来場者にとっての「渋谷らしさ」



出典：第3回 シブヤパブリック展 アンケート結果(H27年3月)

② “渋谷のミライを発見するワークショップ”

- 渋谷駅前エリアマネジメント協議会(※)では、変わり続ける渋谷の魅力を通して、渋谷を訪れる人々や渋谷に暮らす人々に遊び心をプラスして、渋谷をもっと好きになってもらえるような取組みを進めています。
- 渋谷の街が変身する過程を、工事現場見学を通して体感することができる親子ツアーや、取り壊し前のオフィスビルを舞台とした子どものワークショップなどが開催されました。

(親子ツアーの様子)



(ワークショップの様子)



※渋谷駅前エリアマネジメント協議会とは、渋谷駅周辺の開発事業者、渋谷ヒカリエ管理組合、国土交通省東京国道事務所、東京都第二建設事務所、渋谷区から構成される協議会で、今後、大きく変貌を遂げる渋谷駅前の新たな魅力づくり等を協力して行うため平成25年5月に発足しました。

③ 未来の渋谷の可能性をひろげるシンポジウム ~Making Maybe.“かも”づくりフューチャーセッション~

- こんな渋谷、いい“かも”、くる“かも”、できる“かも”、未来の渋谷の可能性をひろげるため、渋谷らしい暮らし方、遊び方、働き方を考えるシンポジウムを開催し、広い視野や様々な角度からゲストと会場が一体となった対話が展開されました。
- このシンポジウムを経て区民、町会、商店会、企業、行政などが協力して、多様な人々による様々なアイデアの実現を目指していく仕組みづくりの輪を広げていくことをお伝えしました。

(シンポジウムでの参加者の声の例：渋谷で叶えたい“〇〇かも”)

街中のオープンスペースがイベントの際に可変するオープンスペースに！！ファッションショーや屋台村に変身するかも！！

渋谷スクランブル交差点のモニターで世界中で起きていることがリアルタイムに分かる情報発信中心拠点になるかも！

歩行者天国復活で渋谷の週末がさらに楽しくなるかも！

坂道の多い渋谷まち歩きサインで、遊びながら健康になるかも！

スクランブル交差点を歩く人たちの力で発電し、交差点の電力をまかなえる“かも”！

種々の開発整備が動き多様な人々が集まる中で、世界一のハードとソフト双方のユニバーサルデザインが施されたまちになることができるかも！

(シンポジウムの様子)



新しいまちづくり手法の検討

3. まちづくりの実現に向けて

住民と渋谷に関わる多様な人々とともに創り上げる“協奏するまちづくり”の展開

“協奏するまちづくり”のイメージ…まちを構成する在住者、在勤者、企業等が、渋谷を応援する来街者、学生、研究者など多様な人々と交流し、まちの将来像を語り合う中で、実現に向けた取組みを発見していくまちづくり

- まちを構成する区内在住・在勤・在学者、企業等が、渋谷を応援する多様な人々（来街者、学生、研究者など）と交流し、まちの将来像を語り合う中で、実現に向けた取組みを発見していくまちづくりの手法を検討します。
- 様々な人々が交流し、生まれたアイデア等を活用しながらまちづくりを考えていくための新しいまちづくりの手法を検討します。
- 新しいまちづくり手法では、多様な視点で渋谷駅周辺のまちづくりを話し合う協働・交流の場を設け、地域ニーズについて検証・検討を進める地域シンクタンク機能と、インフォボックス等との相互連携による情報発信拠点機能を創出することを目指します。

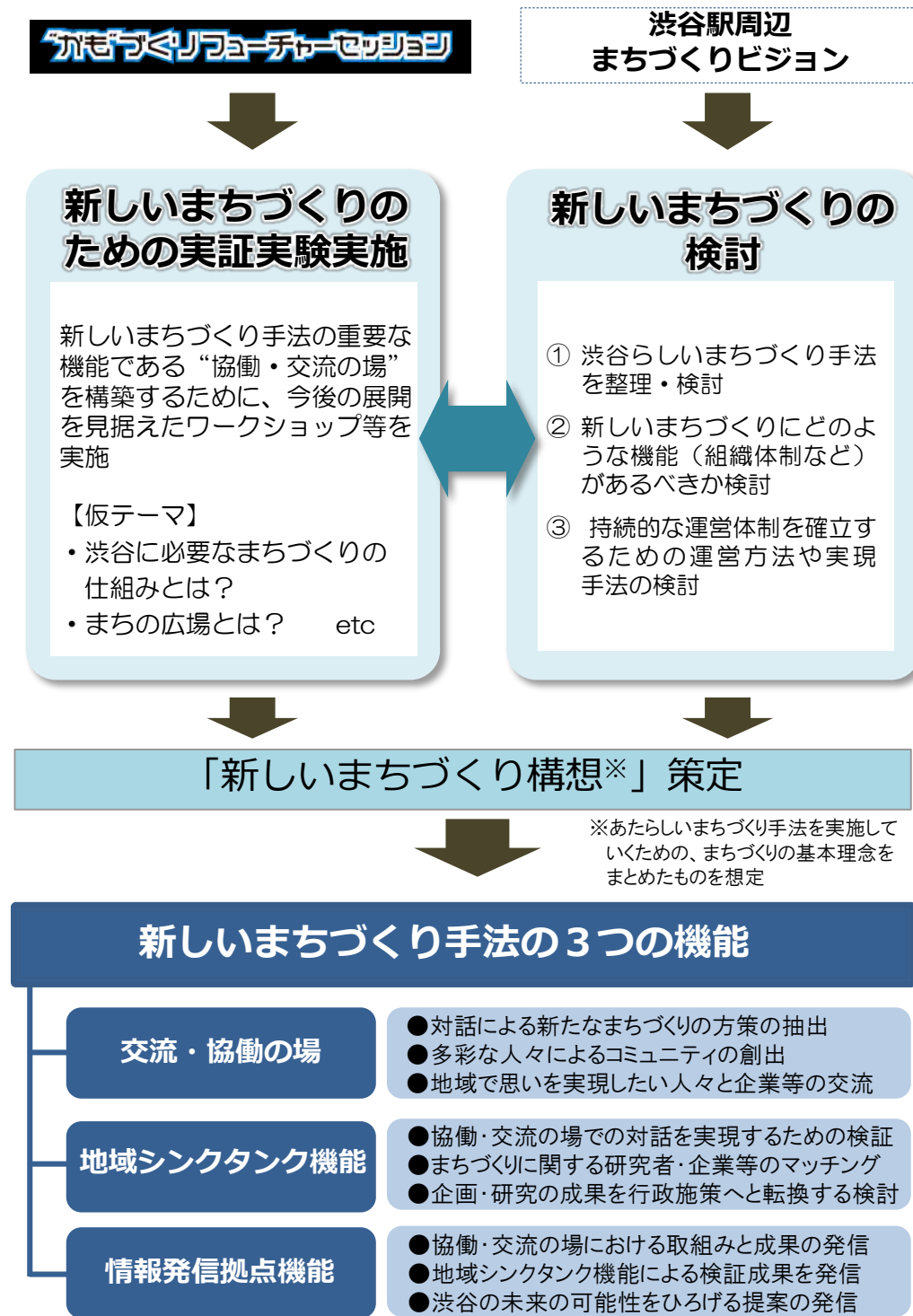
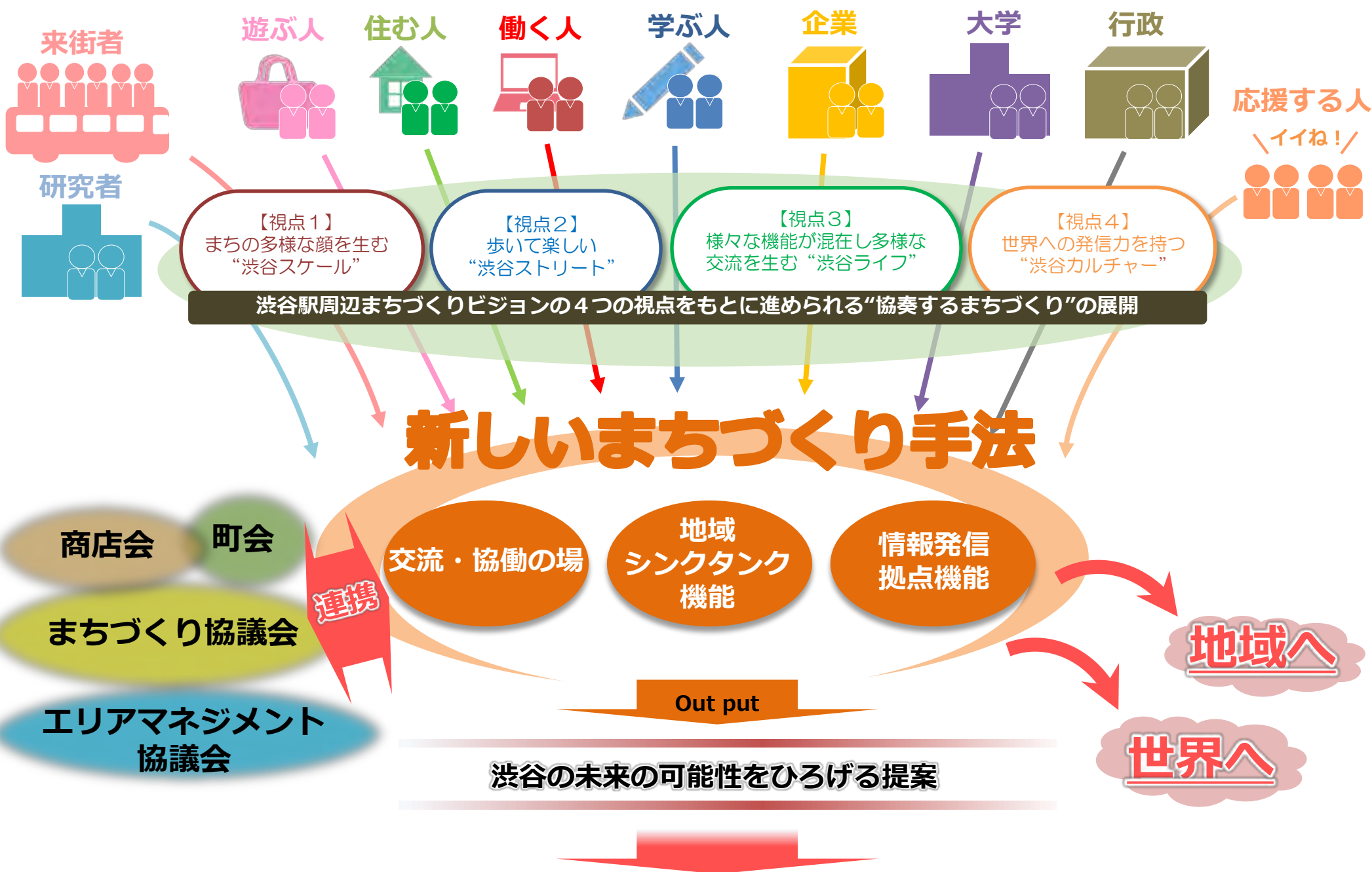
渋谷のまちづくりに様々な人々が関わることのできる“場”となる、新しいまちづくりの展開を目指します。

【新しいまちづくり手法のイメージ】

渋谷駅周辺まちづくりビジョンの4つの視点をもとに、在住・在勤者、企業、来街者、学生、研究者、行政等が協働・交流を深め、まちづくりの地域組織とも連携を図りながら、まちのニーズ分析や情報発信を行うことで、渋谷の未来の可能性をひろげる提案を行うまちづくり手法を目指します。

【今後の進め方】

様々な人々が参加してまちづくりを議論するワークショップ等を実施するとともに、新しいまちづくり手法の検討を進めます。



『生活文化の発信拠点“渋谷”の実現』



結びに

すり鉢の底にある渋谷駅。その谷底から放射状に広がる街路とそれらを連結する網の目のような細街路。

自然と地形の理に適った都市の骨格の上に何世代にもわたって強化されてきたにぎわいの軸線がある。

一方、消滅したかのような寄合空間の小さな痕跡たちが、大きな広場と共にハレの日の出番を待っている。

こうした特徴ある渋谷で「衣食住、働く、学ぶ、遊ぶ、交流する…」を日常と非日常で考える。

3.11で誰もが環境を考え始めたことを大切に、持続可能な都市を大前提とし、まちづくりの仕組みを提案する。